令和6年
1月
学校だより
NO.8 令和6年1月9日
さいたま市立美園北小学校
TEL 048（812）2277
https://misonokita-e.saitama-city.ed.jp/

イノベーション ・ ベンチャー のたね

校長 佐藤 利春

「校長先生！わたしいいこと考えました！」

いつものように放課後の正門で子どもたちを見送ろうと歩いていると、後ろから声をかけてくる子がいます。「わたし、いいことを考えました。『ほめ合いカード』と言って、ほかの人のいいところや、よい行いを見つけ、それをカードに書いて渡すのです。もらうとうれしいし、美園北小学校の子どもたちがお互いをほめ合うのってとっても素敵だと思います。」目をキラキラさせて話します。「それじゃあさ、あなたがインフルエンサーになって徐々に広げていくというのはどう？」カードを印刷し、本人に数枚渡し、数枚を校長室前の廊下に置きました。この子も一生懸命友だち（下級生も含めて）にカードを書いて配ったようです。数日は校長室前のカードが減ることはなかったのですが、そのうちだんだんと減っていきました。わたしにも 3 枚『ほめ合いカード』が届いたので、返事を返しました。まだ、ブームとまではなっていませんが、『ほめ合いカード』の存在を知っている児童は少なくはありません。

学校に広めたい

この時は、朝、廊下で 4 人の子に呼び止められました。「午前中、お客さん対応があるからごめん。昼休みにおいで。」というと、昼休みに来てくれました。「私たちのクラス、春に道徳の授業で話し合ってからずっと、昇降口の傘立てがいつもきれいに整っているのです。ずっと続けることができていて自慢です。これを、全校に広めたいと思っているんです。」これも、目を輝かせて話します。「面白いじゃない！やってみな。」カレンダーを傘立てに置き、その日に〇をつけながら、きれいに整頓されている様子を写真撮影し、毎日継続されている様子をパワーポイントでまとめ、全校に対してプレゼンしようということになり、現在（12 月 18 日現在）実行中です。全校へのプレゼンは、3 学期中の計画です。

コンソメ室

11 月 2 日（木）放課後正門で見送りしているとある子が寄ってきて、「校長先生！校長室を “コンソメ室” にしよう！」というので、「いいね！」と応えました。色画用紙にクレヨンで書き、“コンソメ室” が誕生しました。翌週月曜日、残念ながらこの子は欠席だったので知ることになったのは火曜日でした。月曜日。さっそくほかの子たちが “コンソメ室” にかわっていることに気が付きます。そのために質問攻めです。何回も何回もその経緯を説明しました。「私も考えたい！」と、当然なります。そこで、「“こ” で始まる食べ物縛り ・ 誰でも応募できる ・ 個人でも複数でも OK ・ 1 週間ずつ新たな名前にしていく」というシステムにしました。11 月 6 日～“コンソメ室” から始まり、“コンポタ室” ・ “コールスロー室” ・ “コロッケ室” ・ “小松菜室” ・ “コッペパン室” ・ 2 学期最終週は “コーンフレーク室” でした。12／18 現在で、3 月第 3 週分まで応募が来ており、残り 1 枠です。野球場やサッカースタジアムの命名権のような感じとなりました。命名に名乗りを上げる子はいつもキラキラ笑顔でやってきます。

イノベーション ・ ベンチャー のたね

学校だよりでご紹介した、4 月号の「校長先生。相談にのってもらっていいですか？」（サプライズ企画進行）5 月号の「突然ですが、ぼくから提案があります。」（シャープペンシルを使わせてほしい）10 月号の「みんなで中央階段をデザインしよう。」（浦和レッズコラボ企画）3件に限らず、美園北小学校では、日々、上記のようなことがことがたくさんあります。これは、私が把握している、私が直接コミュニケーションしたものです。子どもたちと本校職員のものを含めるともっとたくさんあるはずです。 子どもが、ちょっとした思い付き・発案・「こうなったらいいな」と思うこと等を声にあげることができるかどうか？上げた声を実行に移すことができるかどうか？そして、失敗を恐れず進行することができるかどうか？うまくいかなくても、また、新たなチャレンジを繰り返していけるかどうか？思いつき、実行したプロセスに価値を見いだし、喜びとすることができるかどうか？【イノベーション】【ベンチャー】などというと、ビジネス用語、子どもたちにとって果てしなく先のようなイメージをもちます。しかし、「そのたねは小さいときにあった。」と聞くことが多いです。

上の者の役割

【子どもが上げた声について「やってみな」という姿勢を大人が持っており、それを普段から子どもたちに感じさせている】これが非常に重要な要素だと考えています。私は、美園北小学校に関わる大人は、いつでもそのマインドでありたいと考えています。大人と子ども・教師と児童・親と子・校長と教諭・上司と部下・先輩と後輩・・・上下関係の大切さはもちろん存在します。しかし、そこに固執し「素直に従う」ことを良しとしてコミュニケーションしていく中で、可能性や育つ芽を抑えてしまっていることがなくはありません。「トヨタのトップダウンはトップが下りてくること:トヨタ前社長 豊田 章男氏」「子ども目線子ども感覚に愚直に真摯に下りてくる:東京ガスケミカル 阿久根 謙司 氏」 その人の可能性を、その人のよさを、その人の“天使”を開花させ、伸ばし、しあわせを実現していくためには、上から目線ではなく、同列目線、さらに下から目線が必須であると、私は強く思います。私を筆頭に美園北小スタッフもいまだ未熟です。スタッフとともに、また、保護者地域の皆様とともに日々トレーニングに励み、子どもたち一人ひとりのしあわせ実現をはかっていきます。本年もどうぞよろしくお願いします。